

日本語と日本文学

第 24 号

-
- 「千世の雪」と「千世のゆかり」……………加藤 幸一……(1)
——貫之集歌の本文異同と貫之の表現——
- 機械主義と横光利一「機械」……………日比 嘉高……(12)
-
- 文学教育におけるコミュニケーション・モデルの構想
……………上谷順三郎 …(左1)
- ダケのスコープと文中における境界……………安部 朋世 …(左11)
- 複合助詞「として」の諸用法……………馬 小兵 …(左23)
- 必然系と可能系のモダリティ……………田村 直子 …(左32)
——条件接続表現によるモダリティ形式を例に——
- 現代日本語における三人称代名詞「彼(女)」に関する一考察
……………ソムキャット・チャウエンギジワニツシュ…(左41)
-

平成 9 年 2 月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙三十枚（一万二千字）程度。ワープロ原稿の場合はフロッピーを添えて御投稿ください（原稿とフロッピーは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿〆切は毎年二度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒筑波大学文芸・言語学系事務室内
『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌はいうまでもなく、学外のOB、学内の教官および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものがあります。従いまして、本誌の一層の充実

は、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承ください。

編集後記

『日本語と日本文学』第二十四号をお届けいたします。筑波大学国語国文学会会長が桑原博史先生から北原保雄先生に替わられたことに伴い、本誌の代表者も北原保雄先生となります。前会長の桑原博史先生は今年三月で御定年を迎えられ御退官なさいます。本学会の前身が東京教育大学国語国文学会であったことは多くの会員の方が御存じでしょうが、桑原先生を最後に、東京

教育大学国語国文学科の教官でもあられた先生が筑波にいなくなりまます。教育大末期・筑波大草創期に在学した身として感慨を禁じ得ません。

学会誌としては一方で伝統を守りつつ、進み行く学問の最先端の成果を取り上げて行きたいと思えます。それにしても横書き投稿論文の数の優勢さに、縦書き（右見開き）基本の本誌の体裁もこのままでいいのかどうか、時に悩んだりもしています。

現編集委員会の仕事も本号が最後となります。会員の皆様のご協力ありがとうございました。

（坪井美樹）

平成九年 二月一日印刷
平成九年 二月一日発行

305 茨城県つくば市天王台一―一―
〒筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 北原保雄
印刷所 ニッセイエブ株式会社

Tel 〇二九八(五一)七六五二